

論文内容要旨

論文題目

がんサバイバーに対する健康管理-山形県コホート研究（高島）-

責任講座：臨床腫瘍学講座

氏名：中村 翔

【内容要旨】（1,200字以内）

背景および目的：がん罹患の増加と死亡率の低下などに起因して、がんサバイバーの数は増加傾向にあるが、がんサバイバーに特異的な健康管理が必要か否かに関する知見、さらに、必要な場合、どのような配慮が必要かに関する知見は限られている。しかしながら、がんに罹ったことのある人は罹ったことのない集団と比較すると、併存疾患を有することによる予後への影響はより大きいと考えられるため、がんサバイバーに対してがんの既往がない人と同様の健康管理・指導で十分か、あるいは特異的な管理・指導が必要か否を明らかにする必要がある。本研究の目的は、山形県コホート研究（高島）を用いて、がんサバイバーと、がんの既往のない協力者とを比較することで、がんサバイバーの生活習慣病のリスクや、それに対する生活習慣の影響を明らかにすることである。

方法：山形県コホート研究（高島）のベースライン調査が2004年から2006年にかけて、合計で3,522名に対して施行され、そのうち2,922名を対象とした。2011年までに二次調査が行われ、最終的には2,116名の転帰を解析した。ベースライン調査時の協力者の特徴と生活習慣病のリスクを、がんサバイバーと、がんの既往のない協力者とで比較した。

結果：がんサバイバーは合計124名で男性57名、女性67名だった。がんの既往のない協力者は2,168名で男性939名、女性1,229名だった。これらの群間でいくつかの生活習慣や栄養摂取量に統計学的に有意な差を認めたが、喫煙状況では群間の差を認めなかった（ $P=0.30$ ）。単変量ロジスティック回帰分析で、がんサバイバーは死亡（オッズ比 [odds ratio; OR] 2.05, 95%信頼区間 [confidence interval; CI] 1.07-3.95）と心臓病（OR 2.60, 95% CI 1.06-6.39）のリスクが高いことが示唆された。喫煙関連癌のがんサバイバーでは、二次発がんのリスクも高かった（OR 2.26, 95% CI 1.01-5.06）。交絡因子を考慮して調整したロジスティック回帰分析においても、喫煙関連癌のがんサバイバーでは、心臓病のリスクが高かった（OR 2.95, 95% CI 1.05-8.26, $P=0.04$ ）。

結論：これらの結果から、がんサバイバーには特異的な生活習慣指導が必要であることが示唆された。特にがんサバイバーとなってからも、喫煙を継続していると二次発がんのリスクが高くなる可能性がある。さらに、がんサバイバーであること自体が心臓病のリスクであるため、これを念頭においた健康管理が必要である。

平成 29 年 1 月 13 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 中村 翔

論文題目： がんサバイバーに対する健康管理 —山形県コホート研究（高畠）—

審査委員： 主審査委員

一 瀬 白 帝



副審査委員

吉 岡 厚 心



副審査委員

石 澤 賢 一



審査終了日：平成 29 年 1 月 11 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

近年がん罹患率は上昇しているが、死亡率は低下しており、がんサバイバー（本研究ではがん罹患の経験がある人と定義し、治療中であるか否かは問わない）も増加傾向にある。しかし、がん罹患に対しては非罹患と同様な健康管理・指導で十分であるのか、あるいは特異的な管理指導を必要とするのか、これまで不明であった。

中村君は、山形県コホート研究（高畠）を用いて、がんサバイバーとがんの既往のない研究協力者の特徴と生活習慣病のリスクを比較して、がんサバイバーに特異的な健康管理が必要か否か、必要な場合どのような配慮が推奨されるのかについて検討した。

2004年から2006年にかけて実施されたベースライン調査の協力者3,522名の内、栄養摂取、身体活動の情報の欠落のない対照者を最大2,292名選択して、6慢性疾患・生活習慣病（がん、脳卒中、糖尿病、脂質異常症、心臓病、高血圧）への罹患と死亡の転帰を解析した。

がんサバイバー124名（男/女；57/67）、対照者2,168名（男/女；939/1,229）を比較した結果、死亡と心臓病（心不全、狭心症、心筋梗塞）のリスクは、単変量解析ではがんサバイバーの方が有意に高かったが、多変量解析ではどの項目も有意差が認められなかった。次に、生活習慣と6疾患の発症と転帰との関連を解析したところ、喫煙者では非喫煙者に比べて死亡リスクが有意に高いことが明らかになった。また、喫煙関連がん（胃、肺、乳、大腸、肝がん）のサバイバーでは、二次発がんと心臓病のリスクも高かったので、中村君は、がんサバイバーには特別な生活習慣指導が必要であると結論している。取得データの欠落が多い、対象症例数が少ないなどの弱点はあるが、がんサバイバーの健康管理は、腫瘍専門医のみならず多くの診療科や地域医療を担う医師にとっても重要な問題であり、本研究の成果は高く評価されて、既に国際誌に掲載されている。

以上により、本審査委員会は、本研究を学位論文に値すると判定したが、提出された学位論文と要旨、スライドの間で数値の不一致や、論文の記述法や文言に不適切な部分があるため、その確認と修正が要求されている。